国語　　東北大学　文学部　教育学部　法学部　経済学部(文系)　(前期)1/2

一

(一) (1) 陥没　(2) 輪郭　(3) 冒頭　(4) 培　(5) 渦中

(二) その場での感情が言葉にしたりできず課題として残っていること。

(三) 言葉にしがたい情感を歌にすることで、日常の持って行き場のない思いに区切りをあたえるため。

(四) すでに獲得された完成品を捨て手前に戻ってみることで、他のかたちでの成立や展開の可能性が得られること。

(五) 言葉にならない事象を前に、吟遊哲学には、既存の知識や構想を捨てて言葉の出現する場所に立ち戻り、言葉とともに経験の動きにかたちをあたえ組織化する詩的な行為も求められるということ。

二

(一) (1) 興がさめ気おくれした　(2) 念を押した

(二) 翔太と会話を続けることが気まずく、早くきりあげたかったから。

(三) 祖父母と孫の関係がよそよそしいままだ、たことが別れに際してはいしたということ。

(四) その場の雰囲気をにぎやかなものにするために言ったことが、かえってつらい気持ちを増すものとなっていると感じられたから。

(五) 幼いと思っていた翔太が、親を頼ることなく独力で走っていく姿に、子が巣立ち自立していくさまを見て、再び帰らない失われた時間を思って感慨にふけっている。

© 河合塾　2021年

三

(一) (1) 盛大に与えられたので

(2) ますます荒れ果ててさびれている

(二) 豊国の馬場は長い絹糸をよるのに必要な広さで、作業に適した場所だということ。

(三) 数え切れない程の老若男女が、豊国参詣に列をなしている様子。

(四) 立派だった豊国神社をこれまでは誰も顧みなかったのに、地震で揺れなかったという噂だけで今になってこぞって参拝しているから。

(五) 地震で揺れなかったという豊国神社にあやかって、自宅の無事を願ったから。

四

(一) (1) やまひをもつてくすりをこへば (こ) (は)

(2) としまさにくれんとするに (すれども) (するも)

(二) (a) 薬代を請求しなかった。

(b) まだ支払いが済んでいなかった。

(三) 羅善庵様がおられなかったならば、私は今日という日を迎えられませんでした。

(四) もし息子の薬購入を母が聞けば、薬の代価は何かと問うだろうということ。

(五) 羅慶同に思返しのしようが無いと思い、長く美しい織物を織って贈り、羅一族がその織物のように末永く繁栄するよう願ったから。

© 河合塾　2021 年